

| No. | 提 案 名                 | 提 案 団 体 名 |                |       |
|-----|-----------------------|-----------|----------------|-------|
|     |                       | 代表者氏名     | 所 属            |       |
| 6   | 若者によるまちづくりのためのケータイ目安箱 | 宇都宮大学 森本組 |                |       |
|     |                       | 柳沼 良輔     | 宇都宮大学大学院 工学研究科 |       |
|     |                       |           |                |       |
|     |                       |           | 指導教員<br>氏 名    | 森本 章倫 |

## 1. 提案の要旨

近年、宇都宮市では過度な自動車依存による都市の郊外化やそれに伴う中心市街地の空洞化、公共交通の衰退など都市に関する様々な問題が顕在化している。それらを打破する取組として、平成 20 年 3 月に策定した「第 5 次宇都宮市総合計画」をはじめ、まちづくりに関する様々な施策が計画、策定されている。その中で宇都宮市では、平成 21 年度から市の魅力・ブランド力アップ戦略「宇都宮プライド」をスタートさせた。創造ボランティアによる地元学ゼミやプライドカフェ（ワークショップ）などの市民参加、ブランドメッセージの作成、アンテナショップ「宮カフェ」の開設など、市の魅力を向上させるための様々な取組がなされている。それらの活動は情報交換サイト「宮カフェ」を通じて情報発信され、市の魅力や価値について市内外の人々に認知してもらえるような工夫が施されている。

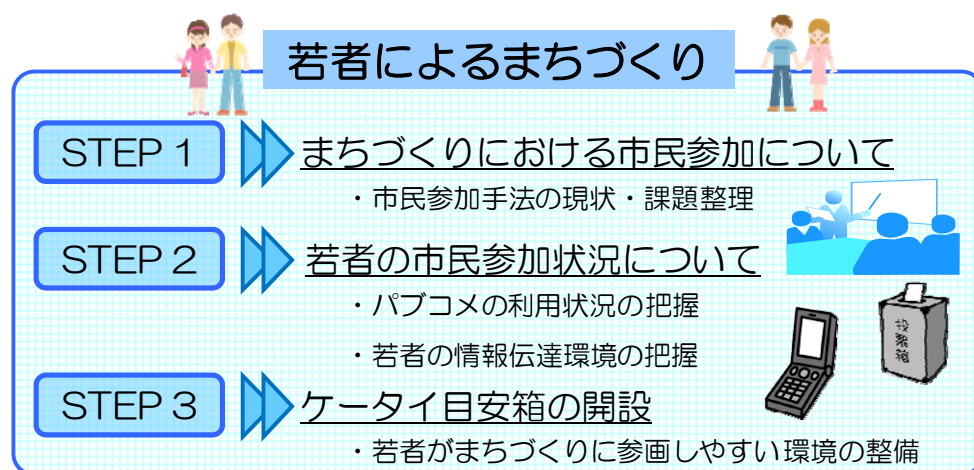
このように市民参加はまちづくりの基本であり、これからのまちづくりにおいては、行政だけでなく市民一人ひとりの自主的な行動と連携した、市民と行政とのパートナーシップによる新しい地域づくりの必要性が求められている。つまり、これからのあらゆる都市問題に取り組むにはハード面の整備だけでは不十分であり、人の意識や行動、そして地域社会のあり方などソフト面も含めたアプローチが必要となる。そのために、市民参加は不可欠なものであるといえる。

しかし、宇都宮市ではこのような市民参加の機会を数多く設けているものの、ワークショップ等の参加者の年齢層には偏りがあり、特に若者はあまり参加していない現状にある。若者は、ワークショップ等に敷居が高いと感じているかもしれないが、そもそも市民参加の機会があることすら認知していない場合もあり得る。多様な人々が豊かに生き生きと暮らせる市民協働のまちづくりを行うためには、より広い市民の意見を取り入れる方が望ましい。特にこれからの時代を担う若者は、今後のまちづくりにおいて中心的存在として重要な役割を担っていくと考えられる。

そこで本提案では、市民の中でも若者をターゲットとして、若者がまちづくりに参画しやすい環境をつくることで、若者が中心となったまちづくりの実現を目指す。

## 2. 提案の目標

若者が市民参加しやすい環境をつくるには、まずは若者の身近なところから市民参加するのが望ましい。そこで本提案では、若者にとって身近なコミュニケーションツールである携帯電話と、市民参加の一環として、市政への身近な意見提案の機会であるパブリックコメント（以下、パブコメ）に着目する。若者に現在計画策定段階でパブコメを募集している施策を提示し、気軽に意見を投稿できる現代版目安箱のようなケータイサイトを開設する。これにより、若者が市の施策に対するパブコメを投稿しやすい環境をつくることで、若者のまちづくりへの参加による開かれた宇都宮市を創造することを最終的な目標とする。図－1 に本提案のフローを示す。



図－１ 提案のフロー

### ３．現状の分析と課題

#### ３－１ 市民参加・参画を取り巻く現状と課題

##### ３－１－１ 宇都宮市における市民参加・参画 ～市民協働推進指針・計画～

宇都宮市では平成 16 年 11 月に地方分権の進展に伴う自治体の取り組み，市民のまちづくりへの参加意識の高まりなどの背景から，行政だけのまちづくりではなく市民との協働によるまちづくりが必要と考え，市民と行政がお互いに共有する指針として「市民協働推進指針」を策定した。

この指針を踏まえ，市民と行政との協働のまちづくりを実現できるよう，地域づくり活動や市民活動の支援策など具体的な取組みを推進するため「市民協働推進計画」を平成 18 年 9 月に策定した。各主体の活動の現状と課題は表－１に示すとおりである<sup>3)</sup>。この中で，市民の現状においては市民意識に格差があるとされている。また，課題としてはまちづくりに参加しやすい仕組みの構築とある。また，同計画の中で市民参加方法の拡充が，具体的な取組みとして挙げられている。次項で具体的な市民参加・参画の手法について整理を行う。

表－１ 各主体の活動の現状と課題<sup>3)</sup>

| 活動主体         | 現状                                         | 課題                                              |
|--------------|--------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 市民           | ・ 市民活動に参加意欲がある<br>・ まちづくりに対する参加意識に格差など     | ・ まちづくり活動に参加しやすい仕組みの構築<br>・ まちづくりに関する市民意識の醸成 など |
| 地域団体         | ・ 活動者不足による役員の固定<br>・ 地域課題への取組みが少ない など      | ・ 活動の必要性への意識醸成<br>・ 人材の育成，発掘，活用 など              |
| NPO          | ・ 公共的分野における担い手として活動<br>・ 活動基盤（場所・資金）が弱い など | ・ 地域や行政などとの協力，連携体制の拡充<br>・ 活動基盤の強化，活動場所の確保 など   |
| 事業者<br>（企業等） | ・ 社会貢献活動への取組み<br>・ 活動への社内体制の整備 など          | ・ 他の主体との情報の共有化を図る<br>・ 資源（人材，知識，技術等）の提供 など      |
| 市            | ・ 広報紙などによる情報提供<br>・ まちづくり活動への支援 など         | ・ 参加，参画しやすい仕組み<br>・ 情報の共有化の推進 など                |

### 3-1-2 市民参加・参画の手法について

#### ① ヒアリング調査

団体・組織・グループや個人に対する聞き取り調査であり、アンケート調査と並んで各種行政計画の策定過程によく用いられている手法である。聞き手としては、行政職員が担当する場合やシンクタンク・コンサルタント職員（外部協力者）が担当する場合などがある。

#### ② ワークショップ方式

地域の現状把握からはじまり地域の問題点や課題の整理・分析、計画の方向性の提言、計画案・設計案づくりなどを行うのに適した参加の手法である。カードを使ったグループディスカッションや実際に図面に絵を描き込んでいく方法など、参加人数や目的に応じて様々な進め方があり、これらを組み合わせて数回にわたって集まり、意見をまとめ、提言を行うものである。

#### ③ 住民説明会

行政がある事案について説明するものであり、その結果として意見を聴取したり、議論したりすることは当然あり得るものである。住民説明会という場合は、対象を全市民といったように広くとることも、地権者などの利害関係者や特定地域の住民というように対象を狭くとることも可能である。

#### ④ パブリックコメント（パブコメ）

行政機関による規制の設定、改廃にあたり、原案を事前に公表して国民から意見や情報提供を求め、フィードバックを行う制度であり、1999年から全省庁に導入されている。具体的には、まず省庁は、規制を行う前に政省令案を関係資料とともにHPで公開する。次に、一か月程度の募集期間の間に国民からの意見や情報を集め、それに対する行政機関の考え方を公表する。そして国民からの意見をくみ取った上で、最終的な決定を行う。

#### ⑤ 審議会等

審議会・諮問委員会では、行政が一定の委員を選任し、委員の合議による答申を受けることから、会議運営及び策定過程の民主制の確保、学識経験者等の参加による専門知識の導入、関係者の利害調整などを図ることができる。

以上に挙げた5つの手法の他に、アンケート、公聴会、モニター、フォーラム、シンポジウム、意見・作文・アイデア等の募集などがある。ここで述べた5つの手法について特徴（参加のしやすさ、情報提供の量など）を整理したものを表-2にまとめる。

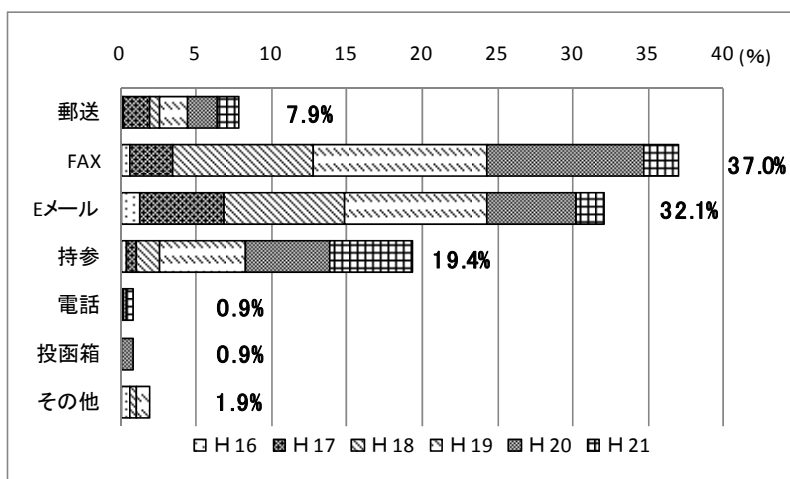
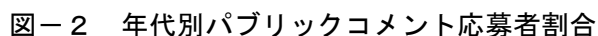
本提案では、若者が中心となったまちづくりの実現を目指すため、住民参加手法の中でも比較的参画しやすいパブコメに着目する。次節ではパブコメに関する現状把握を行う。

表-2 住民参加・参画手法の特徴

| 特徴\手法 | ヒアリング | ワークショップ | 住民説明会 | パブコメ | 審議会等 |
|-------|-------|---------|-------|------|------|
| 参加の有無 | ○     | ○       | ○     | ×    | ○    |
| 参加人数  | 1人    | 少人数     | 大人数   | 1人   | 少人数  |
| 情報量   | 少     | 多       | 多     | —    | 多    |
| 発言の機会 | 多     | 多       | —     | —    | 少    |
| 会の頻度  | 一回    | 一回      | 少     | なし   | 少    |

宇都宮市は、平成 16 年度からパブリックコメント制度を導入し、現在 7 年目である。平成 16 年度から平成 21 年度までの 6 年間で、63 件の案件に対してパブリックコメントを募集し、総計 479 名の一般の方や団体から 1323 件のコメントが寄せられている。今年度は、宇都宮市自転車のまち推進計画に関するコメントを募集している。

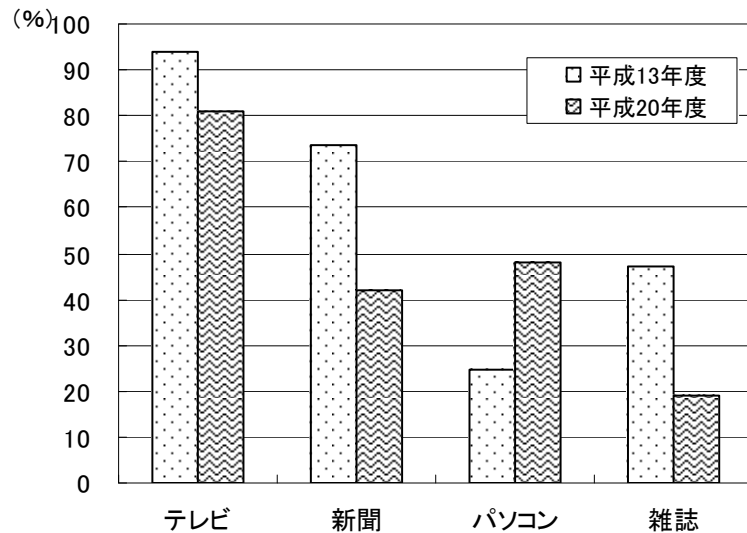
このことから、住民参加の一環として若者にパブコメを投稿してもらえるような環境をつくるためには、気軽さを重視した機能を整備することが重要であると考えられる。



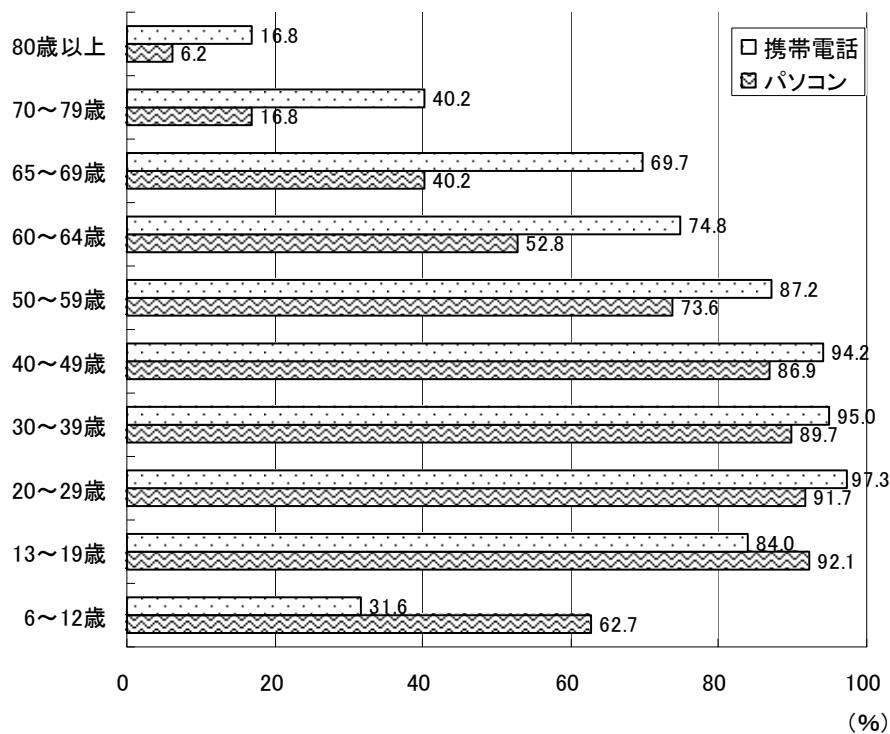
図－３ 種類別パブリックコメント提出方法割合

### ３－３ 若者の情報伝達を取り巻く現状と課題

文化庁によって行われた平成 20 年度「国語に関する世論調査」<sup>5)</sup>によると、若者（20 代）の情報源はテレビが最も割合として多く、続いてパソコン（インターネット）、新聞と続く（図－4）。また、平成 13 年度の調査と 20 年度を比較すると、パソコンから情報を得る割合がほぼ倍増している。また、平成 21 年度「通信利用動向調査」<sup>6)</sup>によると、パソコン・携帯電話の 20 代の利用率はいずれも 90%以上であり、高い利用率を示していることが分かる（図－5）。



図－4 若者（20 代）の情報源の割合



図－5 パソコン・携帯電話の利用率

### 3-4 若者が市民参加しやすい環境について

以上の現状分析から、あまり市民参画していない現状にある若者が市民参加しやすい環境をつくるためには、住民参加手法の中でも比較的参画しやすいパブコメと、若者にとって身近なコミュニケーションツールである携帯電話に着目することが若者の市民参加への第一歩であると考えられる。そこで本提案では、若者が市民参加の一環として、まずは市の施策に対して気軽に意見を投稿できるケータイサイトを開設する。

## 4. 施策事業の提案

### 4-1 ケータイサイトの開設

現代において、市民はインターネットを用いて市について様々な情報を受け取っていると考えられる。その中で宇都宮市では、計画されているいくつかの施策について情報を公開し、市政への意見提案手続き、いわゆる「パブリックコメント手続き」を通し、広く市民に意見や情報を求め、都市計画マスタープランなどの計画策定に反映させている。現在パブコメの募集はインターネット上で行われているが、市政への参加意欲の高い一部の人にしかその存在は知られておらず、パブコメの制度について知らない人も少なくないのではないかとと思われる。そこで本提案では、今後のまちづくりに多大な影響を与えると考えられる若者のまちづくり参加促進を目的とし、手軽に市からの情報取得、及び意見投稿ができるケータイサイトを開設する。既存のホームページでは、PCからのアクセスが主で、市のホームページを閲覧するには、目的意識とある程度の手間が必要であった。しかし、ケータイサイトであればいつでもどこでも手軽に閲覧することが可能である。特に若者が市の情報を得るには非常に有効なツールだと考えられる。運営側としては、コストもかからず更新も簡単であるため容易に公開することができる。図-6 は今回試作したサイトである。また、本サイトのタイトルは「若者によるまちづくり～現代版目安箱～」(仮)である。<URL><http://ip.tosp.co.jp/i.asp?I=matidukuri&guid=on>



図-6 「若者によるまちづくり～現代版目安箱～」 ※画像はイメージです

## 4-2 ケータイサイトの内容

今回試作したサイトの主な目的は、手軽に市の政策に対するコメント（パブコメ）を投稿できることと、政策の情報を得て興味を持ってもらうという点である。今回試作したサイトでは、このサイトが作られた経緯と目的を述べた上で、以下の3つの項目に分けられている。まずは宇都宮市の目指す将来像についてのプランの概要説明、次に、パブリックコメントとはどのようなものであるかの説明、最後に、現在パブコメの募集をしている計画についての説明である。携帯電話という小さな画面しか持たないツールでは、PC向けホームページのような大量の動画や画像・文章等の情報を発信することは困難である。そのため、本サイトでは各政策の大まかな概要と、場合によっては一部画像のみによる説明（本サイトでは最大1000文字）を行い、短時間ですべてを読み切れるようにする。各ページの下部には「政策へのコメントはコチラ」というリンクがあり、そのままコメントを投稿することが可能である。また、要約された「パブコメ募集中の政策」を読んで興味が湧き、PCのホームページで政策の詳細を閲覧するとなれば、本ケータイサイトは市民の市政参加への足がかりになったといえる。

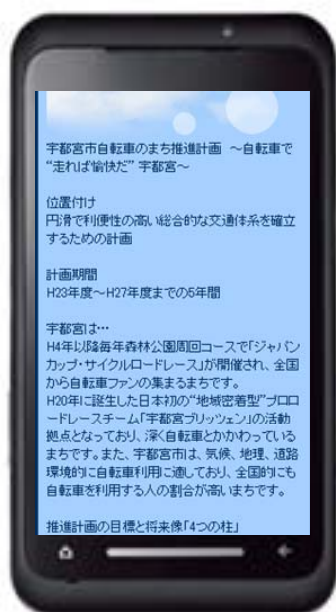


図-7 「パブコメ募集中の政策」要約版



図-8 本サイトのQRコード



### 4-3 ケータイサイトの今後の展開

本ケータイサイトは、無料のホームページ作成サイトを使用して作成したため、容量や階層に制限があり、市の政策概要と募集中のパブリックコメントの要約版しか公開できていない。今後、政策情報とともに市のイベント情報等を随時公開し、パブコメを知らない人でも本サイトへアクセスする機会をつくることで、自然とパブコメの存在を知らせることができる。本サイトへのアクセス手段としては、市内の各所に URL もしくは QR コードを掲示することで、より本サイトが身近なものとなり、行政が市民の意見を募集しているという事実を広めることが可能だと考えられる。

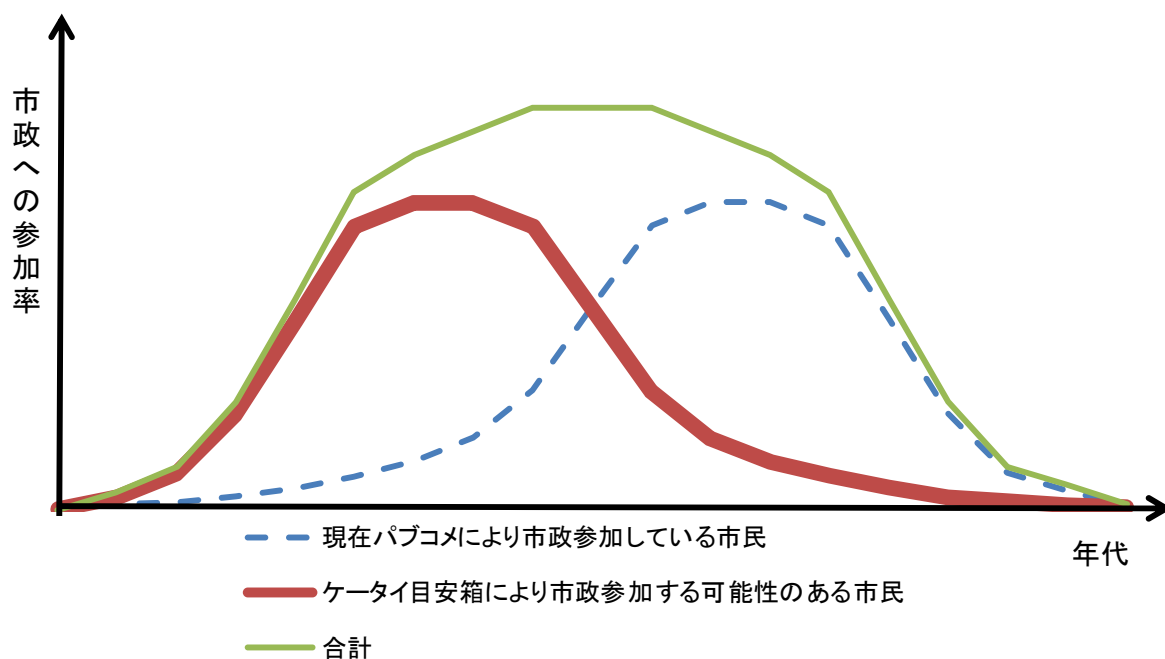
### 4-4 事業の効果と市民・行政の役割

本提案は、若者によるまちづくりのための提案であるため、市民の中でも特に若者が重要な役割を担う。よって、ここでは若者の市民の役割について述べる。若者は、市政やまちづくりに関する情報を入手する際には、まず本ケータイサイトにアクセスすることで、市政に関する最新の情報を取得する。サイトには市の政策の概要が掲載されているので、若者はそれらを見ることで市が現在どのような施策を計画・策定しているか現状を把握することができる。また、現在パブコメを募集している施策とそれに対するパブコメ投稿欄も設けてあるので、気軽に市の施策に対して意見を書き込むことができる。パブコメの投稿を通じて、若者のまちづくりに関する興味関心が湧き、市民全体のまちづくりに対する意識が向上すると考えられる。また、要約されたパブコメ募集中の政策を読んで興味が湧き、市の HP で施策の詳細を閲覧するとなれば、まちづくりへの関心がより一層高まるという効果が期待できる。さらに、投稿されたパブコメが実際に施策に反映されたとなれば、まちづくりに関わったという実感が得られ、若者のその後の継続的なまちづくりへの参加、あるいはワークショップなど他の市民参加の機会にも興味を示すことにも繋がると思われる。

次に、行政側の役割について述べる。本提案は、若者主体のまちづくりの実現を目指しているため、行政側は主に市民をサポートする役割を担うことになる。行政は、主にケータイサイトを管理、運営する立場になるので、常に市のまちづくりに関する施策の最新の情報をサイトにアップロードしていく必要がある。市民から投稿されたパブコメに関しては、施策に反映できないか十分に考えて返答を公表することが望ましい。また、投稿されたパブコメの件数・内容を整理して分かりやすく表示することも大切である。効果としては、今まで少なかった若者の貴重な意見を取り入れることで幅広い世代の民意を施策に反映することができる。

本提案の実施により、市民と行政が一体となってそれぞれの役割を十分に担うことを通して、持続的な市民参加型のまちづくりが行われると考えられる。図-9 に、市民の年代と市政への参加率に着目した、事業の効果の概念図を示す。





図－9 事業の効果

#### 4－5 事業の問題点及び今後の課題

本提案の実現に向けて検討すべき問題をいくつか挙げる。まず、ケータイサイトの十分な PR やサイトの容量・階層性の充実化を図る必要がある。次に、誰でも気軽に意見を投稿できるため、昨今話題になっているブログの炎上のように、悪意のある意見が投稿されてサイトが炎上する危険性も懸念される。そのため、サイトへのアクセスには ID・パスワード等を設定するなど登録制にすることも考える必要がある。また、現在市の HP でもパブコメは募集しているため、HP とケータイサイトの両方でパブコメを募集しようとするとうちがかりがつかなくなる可能性もあるので、市の HP との位置づけをはっきりさせることが重要になる。さらに、投稿されたパブコメに関する返答を分かりやすく公表するための工夫も必要になる。

## 5. おわりに

本提案では、これからのまちづくりを担う若者をターゲットとして、若者がまちづくりに参画しやすい環境をつくることで、若者が中心となったまちづくりの実現を目指してきた。そのため施策事業の提案として、市民参加の一つの手段である市の施策に対するパブコメを投稿できるケータイサイトの開設を行った。

今回提案したケータイ目安箱を若者が市民参加の一つのきっかけとして活用し、宇都宮のまちづくりに関して少しでも興味を持ち、考えて頂ければ幸いである。若者が本サイトを足がかりにしてワークショップ等の市民参加の機会を知り、実際に参加してあらゆる世代の市民と交流し、そこから生まれた民意が宇都宮のまちづくりに反映されることで、持続可能な住民参加型の宇都宮のまちづくりがこれからも行われることを期待したい。

**宇都宮大学 森本組**

宇都宮大学大学院工学研究科 柳沼 良輔

浅香 俊朗

塩井 恵理子

鈴木 一将

### 【参考文献】

- 1) 宇都宮市 HP : <http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/index.html>
- 2) 宮カフェ HP : <http://miyacafe.jp/index.php>
- 3) 宇都宮市 : 「市民協働推進指針」, 2004.11
- 4) 鎌ヶ谷市 HP : <http://www.city.kamagaya.chiba.jp/>
- 5) 文化庁 : 「平成 20 年度『国語に関する世論調査』の結果について」  
[http://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/yoronchousa/h20/kekka.html](http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/yoronchousa/h20/kekka.html)
- 6) 総務省 : 「平成 21 年度『通信利用動向調査』」, 2010.4
- 7) ホームページ作成サイト : <http://ip.tosp.co.jp/>
- 8) QR コード作成サイト : <http://www.cman.jp/QRcode/>